

ONE ART Taipei 2024 開催

9回目となるONE ART Taipei 2024が、1月26日から28日にかけて、J R東日本大飯店 台北で開催される。日本や韓国、香港、マレーシア、フランスなどから72軒のギャラリーが出展し、うち21軒が初出展となる。

日本からの出展画廊はArtgalerieux GALLERY OF TOKYO、かわらざ画廊、HIDE GALLERY、Y IRIYA TOKYO、木之L GALLERY、MU GALERIE NUAGE、GALLERY、田中美術、TEZUKAYA AMA GALLERY、gallery UG、ホワイトストーンギャラリー、Gallery ACCESS、DMOARTS、石川画廊、TOMOHICO YOSHINO GALLERY。

今回は本会場でのフェアに加え、新しい試みとして南港の「ポトル キャップファクトリー 台北」エリアでアートイベント「Voices」を同時開催。大型彫刻やインスタレーションアートサウンドパフォーマンスなど、ジャンルを超えた作品が紹介される。

ONE ART TAIPEI 2024
会期 1月26日(金)～1月28日(日)
会場 J R東日本大飯店 台北
https://www.onearttaipei.com

集美・アルル国際写真フェスティバル2023が中国廈門で盛大に開幕

中国の現代アート写真界において最も著名な写真美術館である三

影堂が主催する集美・アルル国際写真フェスティバルは、12月15日から2024年1月21日まで集美芸術館、三影堂廈門攝影芸術中心他、廈門と福州の美術館や美術学校で開催される。9回目の開催となる今回は、国際的視野から提供される「フランス・アルル」エリアや、中国の優秀なアーティストを発掘し、国際舞台で宣伝する「集美・アルル発見賞」エリア、そして2021年からジャンルと共同で企画している、中国の若いキュレーターを育成する「集美・アルル映像キュレーター賞」エリア、新たなエリア「群島計画」など、合計14のエリアで同時に開催される。国内外から100人以上のアーティストが参加し、総計31の展覧会と2000点以上の作品が展示される。

集美・アルル国際写真フェスティバル
会期 12月15日(金)～24年1月21日(日)
会場 中国・廈門市集美芸術館、三影堂廈門攝影芸術中心、および廈門と福州の美術館や美術学校
https://www.threeshadows.cn/jimei-artles

Wills展2023 受賞者発表

2016年、西武・そごうと創画会若手会員有志によって発足した「Wills」。デパートと作家それぞれの意志を世に出すことを目的に開催が続く。第8回となる今回の受賞結果は、Wills賞は陶虹(Tao Hong / 東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程在学中)、優秀賞は杉山佳(東京藝術大学大

学院美術研究科博士後期課程修了)と岩本智美(京都精華大学芸術学部洋画専攻卒業)となった。Wills賞に輝いた陶虹の作品「ヒトリの呪い」について審査員の一人、海老洋は「ミニマムな構図の中に、作家の描こうとしたポイントが見事に収まっている」と評した。陶は中国ではイラスト系の絵画作品を発表していたが、東京藝術大学大学院に留学し岩絵具の魅力に取り憑かれた。現在は同年代作家も含む幅広い日本画作品を楽しく学んでいるという。

美大の卒業展を見ても、留学生たちの作品に宿る気迫は群を抜いている。文化的背景が異なる作家たちの交流による、日本画領域の新たな展開を期待させる結果となった。



受賞作家たち。左から岩本智美、陶虹、杉山佳。

美の起原展2023 授賞式が華やかに開催

昨年12月2日、美の起原展2023授賞式が帝国ホテルインペリアルラウンジアキアで開催され

た。11回となる同展は203名による271点の応募作品から選ばれた30点が2会期に分けて展示された。大賞はUta、準大賞はNISHINO HARUKA、特別賞はこだんみほ、奨励賞は不二(Fuji)、甘甜、カトマサ、HARUNA SHIKATA。審査員賞は神戸勝史(大杉賞)、犬飼将隆(こにく賞)、D2グループ賞はすぎうらひろあき、クサカバ賞はすぎうらひろあきと落直子が受賞した。授賞式でD2グループCEO谷口裕義は来年度の「美の起原展」の公募の停止を発表した。24年は休催となり、次回は25年予定。

授賞式の様子。(右より時計回りに) NISHINO HARUKA、谷口裕義、D2グループCEO、Uta、こだんみほ、こにく、大杉浩司、犬飼将隆、神戸勝史、不二(Fuji)、HARUNA SHIKATA、カトマサ ©美の起原



Yamawake art galleryが始動

11月28日、投資・配当型クラウドファンディング「ヤマワケ」を運営するWeCapital株式会社と、その子会社であるヤマワケアートの株式会社は新進気鋭のアーティストをサポートし、新たな可能性を生み出す場として「Yamawake art

gallery」を六本木にオープンした。オープン記念展の出品作家は池内信介、原愛梨、早坂寿輝、AAA Chan、中津川翔太、HOKI、秋山賢太、たいぞう、南海キャンディーズ・しずちゃん。ヤマワケアートの株式会社代表取締役の大石主歩は「ギャラリーが所属アーティストの作品を販売するだけでなく、積極的に買い取り、将来的にはそれらの作品をコレクターやアートオークションで販売し、その大きな利益をアーティストに還元する仕組みです。私たちは、作品の持つ価値を最大限に引き出すためのサービスを構築したい」と述べた。

オープニングの様子。(右から) ヤマワケアート株式会社代表取締役大石主歩、AAA Chan、原愛梨、エクス、中津川翔太、池内信介、たいぞう、南海キャンディーズ・しずちゃん ©Yamawake art gallery



「榎田達雄画集」が刊行

立軌会同人として活躍した榎田達雄(1934～2021)の全貌を紹介する初の本格画集が刊行される。千足伸行(成城大学名誉教授)、宝木範義(美術評論家)による書き下ろしを掲載するほか、『美じゃん新報』に寄せられた風